

舟はスローライフ・持続可能社会の先進役

2025年12月



お江戸舟遊び瓦版 1136号

水彩都市江東 こころ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり  
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田13-10

誰ひとり取り残さない為に減災力を高めよう

日時：2025年11月29日（土）10:00～17:00

所：足立区生涯学習センター 学びピア

主催：第5回荒川流域防災住民ネットワーク

共催：足立区荒川流域防災住民ネットワーク実行委員会

参加団体：あだち女性防災士会、輿野町住宅自治会災害対策部、

足立区日本防災士の会、荒川流域防災プロジェクト、ブルートラ  
フィク合同会社、FM準備会、自衛隊足立地域事務所、水辺のク  
リエイターズ、大東文化大学防災研究会「STERA」、帝京大学、

日本プール安全管理振興協会、文教大学日本語ボランティアサークルふじゅは (Fusnpo) ,方側有効向組合ワーカースコーソン  
ター事業団、(一社)コーチングバリュー協会、NPOあらかわ学会、NPOSDGsいたばしネットワーク、NPO夢企画、オンライン  
防災、いたばし協働スイシンセンター (11/8順不同)

荒川流域防災住民ネットワーク



1. 開会挨拶：加藤勉、塩野喜久雄、橋本正法、水越雅子、三井元子

荒川流域防災住民ネットワークは、2019年台風19号の被害を契機に始まった。地球温暖化に伴う気候変動の影響により、洪水や土砂災害は、毎年のように発生している。板橋区では堤防決壊寸前まで迫った。板橋区には、荒川氾濫を想定した避難体制という地域課題があることに気付き、区内で避難訓練や学習会をやってきたが、「これは板橋区だけなく、荒川流域の住民共通の問題で、流域住民が協力していくことが重要ではないか」という思いに至った。2021年、荒川流域の住民や関係者が自治体の枠を超えて当事者の立場でつながり、知恵と力を出し合って、具体的に問題の解決を目指していく「荒川流域住民ネットワーク」を立ち上げた。みんなの参加を待っています！！

第1・2回：板橋区、第3回：北区、第4回：荒川区、第5回：足立区、次回6回は：葛飾区。

2. 西新井小学校防災研究発表 西新井小学校防災探検隊（5年生）

小林航「安全マップ作り」、常泉心優「郵便局の防災を学びました」



・荒川について：荒川は173km、流域面積2940km<sup>2</sup>、日本で15番目に長い川、河口から22kmまでは人工的につくられた荒川放水路。

明治時代大台風時の巨大な洪水対策で放水路がつくられた。

・区には貴重な郵便局があり、その郵便局の防災対策を学びました。  
機械が壊れないように、自動停止させる。頑丈な防災倉庫がある。

・足立区避難所は小学校など約30か所が設けられている。

・危険な場所は、建物のそば、電柱、看板、ブロック塀の倒れやすいもの。ガス管や水道管の近く、海岸や川。一般の家では2、3階が危険で、マンションは1階が危険。窓ガラスが危険。

3. 今迫りくる『首都水没』の危機、私達はどうする 土屋信行（リバーフロント研究所審議役）

・江戸時代から水害が続いてきたが、地球温暖化で亜熱帯気候化し、九州で台風が発生している！

・日本人は災害時に避難することは大変少なく  
岡山の水害でも4.6%しか避難していない。

・最近、江東区では100mm/hの雨が降った。

・阪神淡路地震では淀川の堤防が破壊した！

・ハザードマップを熟知、対策が必要。

・皆でご近所力を高めよう！



#### 4. 防災運動紙芝居：(一社) コーチングバリュー協会

i. ゲリラ豪雨・雷雨が起きたらどうしたらいい？

ii. 台風がやって来る。どうしたらいい？

iii. 大雨で洪水・川が氾濫したら、

どうしたらいい？

・難問を皆で考え、デジタル紙芝居活用し、対策を考えた。

映像：[\(20+\) Facebook](#)



大雨による洪水、氾濫時に取るべき行動？

#### 5. 荒川流域住民意見発表～共助を考える～

##### i. 多様な視点で災害に備える 片野和恵（あだち女性防災士会）

災害は男女を問わない。男女共同参画推進視点で女性防災士を増やす。

都の防災士 27800 人。足立区の防災士は 1334 人。内、女性 274 人しかいない。増やさねば！

##### ii. 地域防災と多文化共生 小澤天、高橋佳廉（文教大学日本語ボランティアサークルぶしゅば（Pushpo））

外国人との言語の壁がコミュニティ活動の壁になっている。誰も取り残さないために言語の壁を乗り越えたい。活動に参加して繋がりを創り上げたい。

#### 6. ワークショップ：ゲスト講師：土屋信行、加藤孝明を交えた WS。

大東文化大学「STERA」がファシリテーターで自己紹介し意見交換。

##### 第1部 防災の場から考える：加藤孝明（東大生産研究所、まちづくりから防災専門家に）

i. OKY：お前こっちに来てやってみろ：防災は机上と現場が大きく違っている。

ii. 地域社会での取り組みの肝：自助・共助・公助の

あるべき姿の共有+建設的な議論の場の創出

公助への依存増大からの脱皮

iii. 防災課題を俯瞰的に眺める

予防から復興までの俯瞰した事前準備の必要性

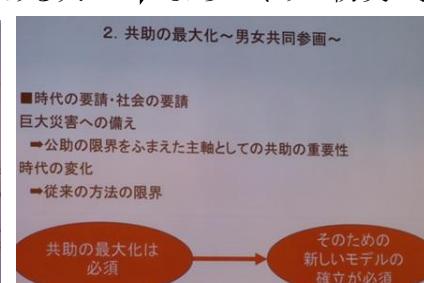
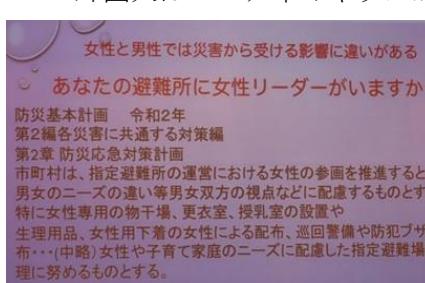
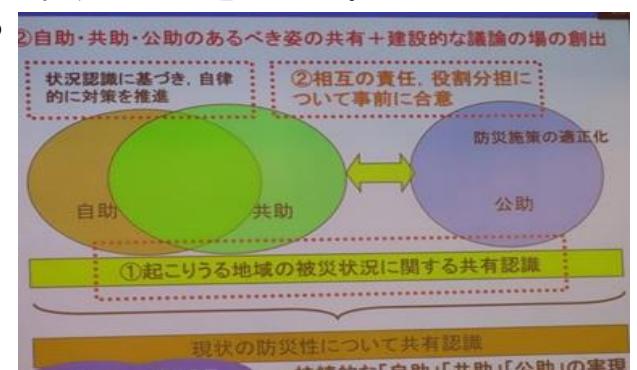
##### 第2部

iv. 男女共同参画はなぜ必要か？

→ 共助の力の最大化！=男女共同参画

v. 多文化共生 ～「外人」である前にヒト～

外国人はハンディキャップがある人 → まちづくり・防災の担い手



展示コーナー：荒川下流河川事務所、足立区、あだち女性防災士会、大東文化大学 STERA 等々たくさんの展示が。



閉会挨拶：1年間実行委員会を継続し、無事成功の内に閉会を迎えた。住民の力で、荒川氾濫を乗り切ろう。

葛飾区「ア！安全快適街づくり」

さん、  
来年は  
宜しく。  
中瀬



所感： 防災意識の高まり、官民連携・活動継続に期待。（文責 中瀬）